



まくべこ

わたしたちのまち

(昭和62年2月1日現在)

人口	21,715	(+25)
男	10,632	(+1)
女	11,083	(+24)
世帯数	6,691	(+7)
一人のうごき(1月中)	—	
転入	69人	転出 46人
出生	19人	死亡 17人

||||||| 生きる喜びを創造するまち・幕別町 (新総合振興計画) |||||



ミニスキーで「飛んだもんだい」

2月15日に行われた冬まつりの「スポーツ大笑」の一コマ。
 ミニスキーをはいて助走路を滑り、サツのタイミングを合わせてジャンプ。題して「飛んだもんだい」。助走路での転倒、空中でのユーモラスなフォーム、着地での雪まみれの姿に観衆も大爆笑。
 長い十勝の冬を楽しんだ一日でした。

特集 本年度の町づくりはどうか進んだか……②

産業の振興

農業
コンバイン
4台を導入

町では、農業生産の安定と生産性の高い農業を確立するため、大型機械の導入や土地基盤の整備などを積極的に進めました。

▼新地域農業生産総合振興対策事業
幕別農協と札内農協が事業主体です。能率的な生産技術を導入し、

町の基幹産業は農業です。昨年は、農家の方々の努力で三年連続の豊作の秋を迎えることができました。

昭和六十一年度も後わずかになりました。町づくりはどう進んだか……。今月号では「産業の振興」「教育施設の整備と社会教育の充実」についてお知らせいたします。

地域全体の農業生産力の向上を図りました。幕別農協はコンバイン三台とブルドーザー一台を、札内農協はコンバイン一台を導入しました。これにより小麦の適期収穫が行われ、事業費は総額で一億二千八百万円です。

表1 本年度行われた道営土地改良事業

事業名	全体計画	事業期間	総事業費	昭和61年度	
				事業費	事業内容
襟内地区 畑地帯総合土地改良事業	五位高台線ほか3路線改良・舗装 L=11,692m 明きよ3,946m 暗きよ378ha 区画198ha	52~64	2,088,000	189,960	改L=1,183m 舗L=23m 明きよ470m 区画整理0.7ha
襟内第2地区	美川西線ほか4路線改良・舗装 L=22,112m 明きよ18,210m 暗きよ424ha 区画156ha 客土210ha	53~68	3,883,000	272,000	改L=2,902m 舗L=1,580m 暗きよ6.1ha 区画整理4.4ha
新川地区	緑町明野線ほか3路線改良・舗装 L=8,363m 明きよ6,035m 暗きよ323ha 客土124ha	56~65	1,858,000	124,930	改L=859m 舗L=853m 明きよ519m
新川第2地区	新川32号線ほか2路線改良・舗装 L=5,874m 明きよ5,099m 暗きよ395ha 客土153ha	56~65	1,608,000	129,260	明きよ985m 暗きよ51.6ha
駒島地区	美川駒島線ほか3路線改良・舗装 L=15,061m 明きよ5,195m 暗きよ466ha 区画178ha	57~70	2,267,000	124,300	明きよ1,172m 暗きよ26ha
駒島東地区	中里駒島線ほか3路線改良・舗装 L=11,709m 明きよ10,044m 暗きよ498ha	58~70	2,381,000	112,300	明きよ1,220m 暗きよ26ha
明倫地区	茂発谷明倫線ほか1路線改良・舗装 L=7,986m 暗きよ289ha 区画71ha	61~70	1,443,000	39,910	農道及び暗きよ、区画調査
西襟内2期地区 農免農道整備事業	猿別川西線改良・舗装 L=8,579m W=5.5m	53~62	989,960	105,120	舗L=2,650m
明倫地区	襟内古舞線改良・舗装 L=2,100m W=5.5m	58~62	253,000	75,000	改L=700m 舗L=650m
大豊第2地区 開拓地農道整備事業	明野25号線ほか1路線改良・舗装 L=4,600m W=5.5m	54~61	553,730	57,870	舗L=1,150m
十勝中央地区広域 農道整備事業	千住13号線ほか1路線改良・舗装 L=15,360m W=6m 中央大橋772m	56~65	9,062,518	667,238	橋りょう 上部工事

(注) L=道路の長さ W=道路の幅

表2 本年度行われた団体営農道・土地改良事業

事業名	全体計画	事業主体	事業期間	総事業費	昭和61年度	
					事業費	事業内容
大豊地区 土地改良事業	明野25号線改良・舗装 L=2,180m W=5.5m	幕別農協	55~63	316,600	68,497	舗L=723m 改L=450m
上稲志別第2地区	日新線舗装 L=2,540m W=5.5m	札内農協	59~62	199,550	57,000	舗L=1,610m
古舞地区	日新線舗装 L=2,644m W=5.5m	〃	61~63	171,800	46,200	舗L=570m
相川地区 農道整備事業	相川6線改良・舗装 L=1,657m W=5.5m	町	56~63	194,600	31,800	改L=891m

(注) L=道路の長さ W=道路の幅

▼道営土地改良事業
農道整備事業は、耕地の改良、農用地の規模拡大、農道網の整備などの基礎的条件を整備するために、北海道が事業主体となっていました。昭和五十四年度から着手した大豊第二地区開拓地農道整備事業が本年度で完了しました。本年度行われた主な事業は表一のとおりです。

▼団体営農道・土地改良事業
町や農協が事業主体となつて行う土地改良事業です。新規として古舞地区土地改良総合整備事業が本年度から始まりました。本年度行われた主な事業は表二のとおりです。

▼地域野菜生産団地育成事業
町の単独事業として行つていきます。野菜農家(五戸以上の集団)が作業の共同化、生産物の一元集荷などを実施する場合は、五百万円をお貸ししています。本年度は、中

里長イモ生産組合に貸し付けをしました。貸付期間は五年以内で、無利子となっています。

▼農業後継者対策

農村花嫁の確保のために、名古屋女性との交流会(一人参加)やキヤプテンシステムを利用した花嫁募集を行いました。また、農村青年の海外研修視察への補助(一人当たり十五万円、二人参加)を行い、優れた担い手の育成に努めました。

▼農村総合整備モデル事業

五十六年度から十カ年計画で、農村地帯の環境施設や生産基盤などの整備を進めています。本年度は途別三号線の改良工事などを行いました。

町営育成牧場 20haを草地改良

畜産

酪農経営は、生乳の計画生産や乳価の低迷など、厳しい環境にあります。

このため、乳牛の産乳能力の向上や生産コストの低減に努め、飼料自給率を向上させることが基本になります。

▼町営育成牧場の整備

町営育成牧場は、昭和四十一年に造成されました。総面積五百六十五畝の中に、採草放牧地が四百九畝あります。



広大な採草放牧地を有する町営育成牧場

一定期間預かること(入牧)と、もう一つは町有家畜を飼育することです。昨年は乳牛、肉用牛のほかに馬産振興のために馬の入牧も行われました。町有家畜としては、黒毛和種(肉用牛)と乳牛、緬羊を飼育しています。

町営育成牧場の整備は五十八年度から進めています。本年度は、二十畝の草地改良と五十畝の隔障物(牧さく)の整備を行い、機能の充実に図りました。

自然を守る町有林 5haに植栽

林業

森林は町の貴重な資源の一つです。建築物の木材をはじめ、水害の防止とともに水や空気を供給したり、私たちのレクリエーションの場所として、限りな

い恩恵を与えてくれます。町では、自然を守り将来の大きな財産ともなる町有林の造成などを進めました。

▼町有林の造成

町有林は約一千三百畝あり、毎年造成事業を行っています。本年度は、一昨年に地ごしらえをした五畝にトドマツの植栽を行いました。また三畝の地ごしらえも行いました。

▼町森林組合への補助

個人や会社などが所有している民有林は、七千二百四十二畝あり、本町の全森林面積の八三%を占めています。植栽、地ごしらえなど民有林振興の指導をしている森林組合へ七十万円の補助金を交付しました。

▼除間伐推進事業への補助

町の単独事業で、民有林の振興と造林意欲の向上を図るためのものです。カラマツやトドマツなどの成長のために行う下草刈りや枝はらい、除間伐四十畝に四十万円の補助をしました。

第9回産業まつりに2万人の人出

観光開発

町観光協会を中心に、各団体の支援で「産業まつり」、「産業まつり」など味覚を主としたイベント、付加価値のある楽しい観光の展開が図られました。

▼町観光協会への補助

観光資源の調査・開発、地場産品の紹介・宣伝などを目的として昭和五十二年に観光協会が発足しました。

本年度の町からの補助金は四百万円で、「産業まつり」などの実施、各種事業の後援や協賛をしています。本年度行われた主なイベントは次のとおりです。

◎第二回明野ヶ丘公園芝桜まつり
満開の芝桜を見ながら、春の一日を楽しんでもらおうと、昨年五月十八日に明野ヶ丘公園で開かれました。歌謡ショーやもちまきなどの催しに約三千人の町民が繰り出しました。

◎サマーカーニバル'86
ジャンボカレライス、開拓の灯りレー、猿別川イカダ下りなどの催しが、昨年七月二十六、二十七日の両日、運動公園と猿別川一帯で行われ、約二千人の町民が楽しい夏の一夜を楽しみました。



2万人の人出でにぎわった第9回産業まつり

商工会への補助で 地域経済の活性化

商工業

「特産品開発研究費補助制度」などにより、地場産品の掘り起こしや、特産品開発のための環境づくりを進めました。また町商工会への補助など、地域経済の活性化に努めました。

▼特産品開発の研究活動補助

特産品の開発や調査研究に要する経費に対して補助する制度です。補助金は一件につき五万円です。

▼町商工会への補助

商工会が行う経営改善普及事業(経営の合理化・改善、経営・金融技術の向上などの相談指導)や一般事業(総合振興対策、商工業振興対策、サービス業振興対策)などに一千五百二十万円の補助を行いました。

◎第九回産業まつり

昨年の十月五日に依田公園一帯で開かれました。秋の味覚と多彩なアトラクションを楽しもうという家族連れなど二万人の人出がありました。

◎第五回冬まつり

二月十五日に運動公園で開かれました。雪像コンクールやカラオケ大会、ユニークなスポーツ競技など多彩なアトラクションが繰り広げられ、たくさんの人出がありました。

教育施設の整備の充実

糠内小学校にプールを建設

学校教育

町内では、十六の小・中学校で三千二百六十人の子供たちが勉強しています。子供たちに快適な環境で勉強してもらうための施設整備や、教育効果の向上を図るための環境づくりを進めました。

▼古舞小学校の増築

古舞小学校は現在三学級編成ですが、児童数の増加により、今春から四学級になります。これに伴い校舎の増築工事を行いました。工事内容は、音楽室を普通教室に改修し、新たに音楽室を増築しました。全体で百八平方メートルの増築です。

▼糠内小学校にプールを建設

糠内地区の児童・生徒の健康の増進、体力の向上のために、糠内小学校にプールを建設しました。長さ二十五メートル、幅十一メートルでビニ

ルの上屋をかけ、雨天でも使用できます。約五千二百萬円の事業費で、昨年七月末に完成しました。



糠内小学校に建設されたプール

▼学校及び教職員住宅補修工事

学校施設の維持・補修や環境整備を行いました。また、教職員住宅の窓のアルミサッシや網戸の取り付けも年次計画で進めました。事業費は二千八十二万二千円です。

▼教職員住宅譲渡代金

債務負担行為で建設した教職員住宅（昭和四十二年から五十九年までの建設分）の借入金返済を行いました。本年度の償還金額は六千九十三万一千円です。

▼学校教育振興及び管理費

各学校の教材、教具の充実を図るための学校教育振興費は、総額で二千六百四十四万三千円（表一参照）。学校経営の管理、維持費は、総額一億一千六百六十五万八千円（表一参照）になる見込みです。

▼スクールバス運行委託料

学校統合（五十年年度）大豊小、西猿別小、豊岡小、新和中）による幕別小・中学校の遠距離通学児童・生徒のスクールバス（三路線）豊岡線、大豊線、新和線）を民間業者に委託しています。委託料は一千九百六十八千円です。

▼幕別町奨学資金

経済的理由で修学困難な生徒のため、町が独自に設けている制度です。対象になるのは、町内に二年以上住んでいる保護者の子弟で、高校または国立専門学校に入

●表一 主な学校教育振興予算 総額 2,614万3千円 (単位：千円)

項目	内容	見込額
教材用学校配分	教材、クラブ用消耗品費	4,760
教材備品購入費	図書、教育機器	19,033
公開研究会補助	幕別小、札内北小	400
スケートリンク造成交付金	学校リンク造成費	1,950

●表二 主な学校管理用予算 総額 1億1,165万8千円 (単位：千円)

項目	内容	見込額
管理用学校配分	管理用消耗品費、印刷費、通信費	17,036
燃料および光熱水費	燃料費、電気料、水道料	57,239
学校管理委託料	小学校4校、中学校3校の管理委託	26,292
管理備品購入費	学校配分、児童・生徒用机、いす	3,534
学校管理運営交付金	教職員図書費、研究費	7,557

学・在学中の生徒で、他の奨学に類する資金の支給、貸与のない方です。支給額は月額四千五百円で、現在十九人の方が受給しています。

▼遠距離通学補助制度

小学生は片道四キロ以上、中学生は同じく六キロ以上の距離を通学する児童（五十二人）、生徒（十七人）に補助をしています。

▼就学援助制度

経済的理由で就学が困難な家庭

や、一定の収入額以下の家庭の子さん（小・中学生）を対象に、学用品費や給食費、修学旅行費などを援助しています。援助する額は国で決められた額の範囲内です。今年の一月十日現在の認定（援助）者数は四百五人（小学生二百七十一人、中学生百三十四人）で、援助率（総児童・生徒数に占める認定者数の割合）は十二・四％になっています。

就園費の補助で 経済的負担の軽減

幼児教育

人間形成の基礎を培う幼児教育は極めて重要です。幕別町には、私立幕別幼稚園と町立わかば幼稚園があり、幼児期における心の発達を助けるよりよい教育を進めています。

▼私立幼稚園入園料・保育料補助

町内の私立幼稚園に通うお子さんの父兄に対して、経済的負担の軽減を図るため、入園料(五千円)と保育料(所得によって異なる)を補助しています。本年度の補助額は見込みで六十三万五千円になります。

▼幼稚園奨励費補助

私立・公立幼稚園に通うお子さんの父兄に対し、幼稚園設置者が保育料などを所得の状況に応じて減免する場合に、当該幼稚園へ補



元気に学ぶ園児たち(町立わかば幼稚園)

助します。(公立幼稚園の場合は父兄へ補助)本年度の補助額は見込みで七百五十九万五千円になります。

婦人短期大学で 100人が受講

社会教育

社会教育は、私たちの心の中にみずみずしい潤いをもたせてくれます。生涯を通じて人間として豊かに暮らすために学級・講座の開設を進めました。また、

各種社会教育関係団体へ補助金を交付しました。

▼家庭教育学級

児童・生徒の両親を対象に開設しています。「しつけ」「性教育」「両親の役割」など親の知識や態度を勉強しています。学習時間は年間二十時間で、本年度は十学級を開設しています。

▼婦人短期大学

新規事業で、働く女性や家庭の主婦が広い視野を持って、家庭づくりや地域で活躍していただくための学習をしました。学習内容は一般教養、趣味(七宝焼き、茶道)、健康体操などです。昨年六月から十月までの間に、町民会館と札内福祉センターで各二十回の講座が開催され、約百人の方が受講しました。

▼図書購入

町民会館と札内福祉センターに



多くの町民に利用されている図書館(町民会館)

それぞれ図書室があります。本年度も百三十万円で図書を購入し、蔵書の充実を図りました。

▼高齢者学級(しらかば大学)

お年寄りが「生きがい」のある生活を送るための学習の場です。六十五歳以上のかたが対象で、陶芸部、手芸部、園芸部などで六十人が学んでいます。

▼学童保育所

家庭において何かの理由で保護を受けられない小学生・二年生を対象に、午後〇時三十分から午後五時までお子さんをお預りしています。現在、町内三方所で開設しています。

▼社会教育関係団体への補助

社会教育活動を円滑に推進するために、町内にはさまざまな団体があります。それらの団体へ補助金を交付しました。補助額は総額

で二百二十四万円になります。

ソフトボール場に 夜間照明

社会体育

町民のスポーツ熱は年々高まっています。農業者トレーニングセンターを中心に、日常生活の中で身近にスポーツを楽しめる環境づくりや、注目を集めているニュースポーツ・パークゴルフの普及に努めました。

▼学校開放事業

ママさんバレーボール、剣道、バドミントン、ミニバレーボールなど、多くの町民が気軽にスポーツを楽しめるよう、町内各小・中学校の体育館を開放しています。

▼スポーツ教室の開設

広く町民にスポーツを普及するために、スポーツ教室を開設しました。水泳教室、体力づくり教室、スケート教室に二百八十人が参加しました。

▼農業者トレーニングセンターの管理運営

五十八年十月にオープンしたトレーニングセンターは、多くの町民に利用されています。本年度は(六十二年四月〜十二月)四万一千二百二十二人が利用しました。一日平均すると百七十六人になります。トレーニングセンターの管理運営費は、本年度は一千百万円になる見込みです。

▼パークゴルフの普及

幕別町で生まれたニュースポーツ「パークゴルフ」の普及に努めました。昨年九月にはパークゴルフ協会が設立されました。また、十勝管内パークゴルフ指導者養成講習会の開催やパンフレットを作成し道内の各市町村教育委員会に配布するなど、町内はもとより町外への普及も図りました。

▼社会体育施設の整備

安全で楽しくスポーツができるように、社会体育施設の整備を行いました。本年度は、幕別運動公園のソフトボール場に夜間照明を四基設置しました。平均照度は二百秒です。本格的な活用は今年からになります。



ソフトボール場に設置された夜間照明

▼社会体育関係団体への補助

十七団体、一千八百六人が加盟している体育連盟に百万円、三十団体、一千四百八十四人が加盟しているスポーツ少年団本部に三十八万円の補助金を交付しました。

に爆笑と歓声

第五回まくべつ冬まつり

冬の恒例行事である第五回幕別冬まつりが二月十五日、幕別運動公園で開かれました。

雪で作ったステージ上での町内の各カラオケスナックの代表十一人がノドを競うカラオケコンテストや、スノーモービルでの雪道散歩など多彩な催しが繰り広げられました。

また、今年の雪像コンクールは各事業所前や自宅前に造った雪像を審査員が出張審査するという方式で行われ、いずれも劣らぬ力作の十七の雪像が展覧されました。

今年の冬まつりは、昨年までの「見るまつり」から「遊ぶまつり」に衣替えし、賞金総額二十万円の「スポーツ大笑」には町内外から二十チームが出場し、ユニークな競技に爆笑や観声が上がっていました。



にぎわった「探検レストラン」。



外での食事の味は格別



カラオケコンテストで優勝した長谷教亭さん(旭町)



羽織はかまの正装で登場した大久保実行委員長



格安の値段に飛びように売れたオークション



11人がカラオケコンテストに出場



スポーツ大笑で優勝した「カツゾー」。賞金5万円を手にニコリ



子供たちに大人気のスノーモービルでの雪道散歩



カラオケコンテストの予選大会は町内の各スナックで

ユニークな競技

雪像コンクール



沢井工業の「鎌倉大仏」



帯広道路事務所の「幕内力士」



中央保育所の「バーマン」



まるだいまートの「マーチャン」

入賞した各作品



優勝した北王コンサルタント制作の「スーパーマリオ」

スポーツ大笑

寒さに震えながら選手宣誓



本格的に整火ランナーも登場



ズラリと並んだ出場チーム



ソリに乗っている人が一番楽? 「人間カーリング」



「今年もつながったデー」と題した氷上ムカデ競争



ほとんどの人が滑り落ちたアイスバーンの坂道を登る「雪山惨歌」



鉄の玉を足につけての障害物競争「雪中佐渡送り天城越え」



「アイスメドレーリレー」。アンカーのゲタでは転倒者が続出



「飛んだもんだい」の珍プレー場面

氷室型の野菜貯蔵庫

町で実用化へ試験開始



注目を集めた雪を氷に変換する機械SIC

町では、水の冷気を利用して農産物を長期保存する氷室型農産物貯蔵庫の実用化に取り組んでいます。二月九日に同施設を一般公開し、本格的な貯蔵試験を開始しました。

氷室システムは、寒冷地のハンディを逆手に取って、氷の冷気で農産物の長期保存を図るもので、町内ですでに、一般農家で同様の貯蔵庫が造られ、低温貯蔵実験が行われており期待どおりの結果が得られています。相川、千住など野菜農家の多い

幕別町ではこのシステムに注目し、昨年暮れに温水プールわきに実験用貯蔵庫を三百七十五万円で建設しました。施設は木造平屋建てで、面積は二十六平方メートル。野菜を入れる貯蔵庫と氷室に分かれ、ウレタンボード及び発泡ウレタンによる高断熱構造になっています。

二月九日には、日本製鋼所室蘭製作所が開発した雪を氷に変換する機械SIC(スノー・アイス・コンバーター)を使って、五十立方メートルの氷のブロック二百個(二百キログラム)を造り、氷室に収容し、貯蔵室に



貯蔵室の内部

はキャベツ、ハクサイ、ニンジンなど九種類の野菜三トを入れました。

町では、貯蔵野菜を国民宿舎幕別温泉ホテルで利用する一方、今後室内の温度、湿度、野菜の鮮度などを継続調査していきます。

貯蔵庫は夏でも二―四度、湿度は九〇%以上に保たれる予定で、実験結果をまとめたあと、町内の農家に普及させたい考えです。



よまき
米木まゆみさん (23歳)
▼吉田司法事務所
緑町40
今年も山登りに
チャレンジします

59年の4月から役場前にある吉田司法事務所に勤務しています。タイプ打ちや書類作成などの事務を担当しています。お菓子をつくるのが趣味で、クッキーやケーキづくりにはちょっぴり自信があります。この所長に勧められて去年から山登りを始めました。頂上に着いた時の感激は言葉でいい表せないですね。今年もいろいろな山にチャレンジします。

こんにちは ②②

ふるさとへの便り...⑪

藤崎栄二さん (45歳)
(東京都久留米市)



ふるさとが

娘への自慢

昭和二十九年から父の仕事の関係で白人中学校(現在の白人公園)のすぐそばに住んでいました。

雄大な日高山脈、広々とした畑、サケがのぼる十勝川、農場のサイロ、厳しい冬の寒さなど思い出はつきません。物が豊かでない時代でしたので、遊びを自分で工夫することが何より楽しいことでした。恵まれた自然、すばらしいふるさとで学んだことをいつも自慢しながら娘に話っています。わが娘は、毎年夏休みに幕別の祖父の家に遊びに行くことが、友達に自慢できることの一つです。今でも、幕別の懐かしい思い出を都会の人に語り、また夢をよく見ます。

まくべつタイムトンネル
あの場合
この場所
今昔



昭和35年ごろの幕別市街地の国道38号線。



現在の同地。跨線橋が完成したのは昭和41年です。

最終会の今回は、国道38号線の幕別市街に入る跨線橋の変遷を紹介します。

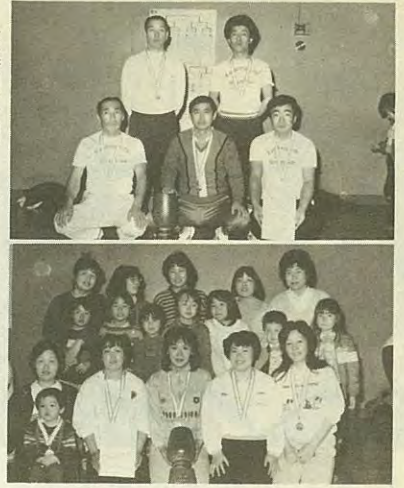
⑪ (最終回)



母子2代の乳量日本一を記録した、佐藤孝広さん(駒島)の表彰式が2月3日幕別温泉で開かれました。母牛は58年、60年の2度、子牛は昨年の4月に達成したもので、この珍しい快挙に集まった人々から称賛の声が上がっていました。

母子二代乳量日本一

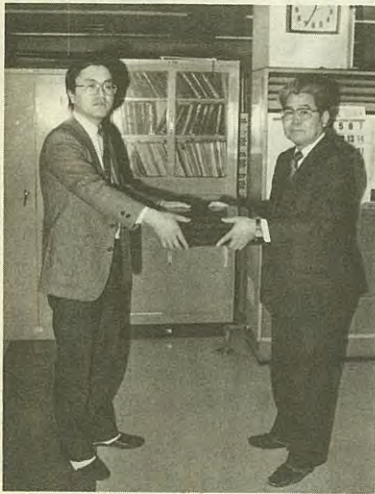
全幕別冬期ミニバレーボール大会がトレセで行われ、男子はAFFA(写真上)、女子はレディースパワーズA(写真下)が優勝しました。同大会は男女各十八チームが参加して一月二十一日に予選リーグが開幕し、二月四日に決勝トーナメントが行われました。



AFFAとレディースパワーズに栄冠



幕別郵便局からお年玉年賀1等



幕別郵便局で四年ぶりにお年玉賀はがき一等ができました。この幸運を射止めたのは緑町に住む奥野一男さん(写真左)で、二月三日に幕別郵便局を訪れ、高山梯次局長から賞品のビデオテープレコーダーが手渡されました。

今年で10回目となった親子工作大会が2月21日開催されました。会場となった働く婦人の家はたくさんの親子でにぎわい、七宝焼きやジグソーパズルが出来上がるたびに歓声が上がりに、親と子の楽しい一日を過ごしました。

にぎやかに親子工作大会



火の用心の主役はあなた

3月7日・「消防記念日」

三月七日は「消防記念日」です。昭和二十三年に消防組織法が施行され、日本の消防が市町村による自治体消防として新たにスタートしたのを記念し、昭和二十五年に設けられたものです。現在、各地域の消防団員は全国で約百三万人。幕別町では

百二十人の団員が常備消防機関とともに、消防活動の両輪として活躍しています。消防の体制は年々整備充実されてきていますが、やはりいちばん望まれるのは、「自分たちの地域は自分で守る」という姿勢です。町内でも六十一年中は十一件、今年に入ってから二件の火災が発生しています。「消防記念日」をきっかけに、一人一人が消防・防災知識を身につけ、火災予防を心がけたいものです。

春休みの過ごし方

春休みは進級の喜びでいっぱい。心身ともに伸び伸びとした生活の中で、新学期に備えて学習や生活の気力を用意させ、自覚を高める重要な時期です。しかし、気力的にも解放的になり、事故を起こしがちである時期でもあります。健康、安全の指導につきましては学校で十分指導しているものと思えますが、生活の場が家庭に移りますので、見守っていただきたいものです。

■おくられている部分はこの休み

- 国語の音読、漢字、計算力、言葉づかい、ねばり強さ
- 通信票を参考に、毎日少しづつやらせましょう。
- 新しい仕事をもらいましょう
- 今よりも難しい仕事をもらおう
- チャレンジ精神を育ててく
- ださい。
- 新学年に向けて準備しよう
- 修理・カバン、体操着
- 清掃・下じき、机、引き出し
- 次学年のネーム、帽子、かさ
- 物を大切にすることを教えてやってください。

町民みんなの関心事

良い子を育てるために

町児童生徒健全育成推進委員会

12

にとりもどそう

「明るいまちづくり」住民大会

三月八日に札内で開催

手づくりのまち推進委員会（高橋次郎会長）の主催により、第十一回「明るいまちづくり」住民大会が三月八日、札内福祉センターで開催されます。

この大会は、日ごろ考えていることを多くの人たちと語り合う中から「生きる喜びを創造するまち幕別町」をつくり出そうとするもの

で、昨年は百二十人の方が参加しています。

今年のテーマは「心豊かな家庭と地域と郷土づくりをめざして」で、午前九時半から開会式が行われます。十時半からは、「これからの地域づくり運動と住民の役割」と題して、札幌在住の道新生活運動協会推進委員である横沢厚彦さ

んの講演があります。

昼食（主催者側で用意）、アトラ



120人が参加した昨年の大会

クションをはさんで、午後からは三つの分科会に分かれて意見交換を行い、午後三時半終了の予定です。たくさんの方の参加をお待ちしています。

「寄付ありがとうございます」

社会福祉協議会へ：

▽匿名の方から一万円 △沢田繁雄さん（明野）から十万円 △匿名の方から一万円 △大和講幕別支部（岡田けん支部長外十名）から五万円

老人クラブへ：

▽砂田としさん（寿町）から中央老人クラブへ二万円 △明野新川

ひと

24 体の続く限り世話を

町の鳥、オオハクチョウの保護監守員まさひとさん
道下 正人さん
(相川・71歳)

幕別町に飛来するオオハクチョウの一群は、十勝を代表する冬の風物詩としてすっかり定着し、昨年は町の鳥に指定されました。このオオハクチョウの保護監守員をしているのが道下正人さんです。

◇

「ハクチョウは神経質な鳥なので餌付けには苦労しました。成功したのは昭和五十二年です。当時エサを食べたのは十四羽。今は百五十羽近くが、朝・夕のエサを待っています。エサのパンくずは、駒野製パン所さんから提供してもらっています。多い日には、一日三

百人近くの見学者が来ますが、マナーが年々良くなってきているのがうれしいですね」

◇

「いつまでもハクチョウが来てくれるよう、旧途別川の環境整備を行政サイドでしてほしいですね。川底にはヘドロがたまっているし、水量も年々減ってきています。駐車場の整備も必要です。しかし、あまり急激に環境を変えるわけにもいきません。ハクチョウに刺激を与えないように徐々に整備してほしいですね。町の鳥にも指定されたことですし、体の続く限り世話をしたいですね」

◇

大正五年栗沢町生まれ。二十三年に幕別に。奥さんと二人暮らし。

依田駅29年の歴史に幕

歴史に幕

本町内を二・三キロ走っている国鉄広尾線が二月一日をもって廃止され、これに伴い依田駅が二十九年間の歴史に幕を閉じました。

依田駅は国鉄広尾線の帯広駅を出て最初の駅で、昭和三十二年十二月二十五日に地元住民の要望と負担金によって開業しました。十勝開拓の祖である依田勉三の姓をとった部落名をそのまま駅名としました。

二月一日は、林町長らが乗ったサヨナラ列車が午前十時五分に依田駅を通過しました。最後の列車を一目見ようと、地元住民らがプラットフォームで手を振り見送りました。翌二月二日から鉄道に替わって路線バスが運行を開始しました。



依田駅を通過するサヨナラ列車